

令和 7 年 3 月

保護者・地域の皆様

関係各位

世田谷区立祖師谷小学校

校長 小俣 和也

令和 6 年度祖師谷小学校 学校関係者評価報告を受けて
令和 7 年度 学校改善方針

日頃より本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、ありがとうございます。

令和 6 年度の学校関係者評価結果に基づく報告書を受け、以下のように令和 7 年度学校改善方針をご報告いたします。

I 学校関係者評価アンケートより

【プラス評価の高かった項目について】 ※「とても思う」 + 「思う」 %

— 児童 —

- ◇授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある。 95.0%
◇先生たちは、ていねいに指導してくれる。 94.5%
◇学校行事は楽しい。 94.1%

— 保護者 —

- ◇学校行事は、子どもにとって楽しい。 94.9%
◇本校は、学校公開や保護者会などで、児童の様子が分かる。 94.6%
◇学校行事は、子どもにとって達成感がある。 93.4%

— 地域 —

- ◇学校の重点目標が明確である。 100%
◇学校行事の内容は充実している。 94.1%
◇学校からのお知らせ（学校だより）などにより、学校の様子が分かる。 94.1%

児童は、学習 5 項目で「とても思う」「思う」は平均 88.1% だった。昨年度は 4 項目だったが平均 89.5% だったので、1.4P 下がった。「授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある。」は 95.0% と特に高かったのは、探究的な学びとして「交流、話し合い活動」が多く行われたからと考えられる。どの項目も学習活動において中心となる活動なので、常に高い評価であるように授業改善を行っていく。教員の指導については昨年も同程度であった。「学校行事は楽しい。」は 14P も高くなり、行事や特別活動への関心・意欲が高いことがうかがえる。

保護者は、上位 3 項目が昨年度と同じだった。本校の行事が、子どもにとって楽しいだけでなく、達成感が得られるよう引き続き行っていきたい。学校公開は、期間中はフリーに参観していただいた。保護者会は、1, 3 学期は対面、2 学期はオンラインで行った。直接、児童の様子を見たり、保護者が情報交換したりする機会が増えたことで学校の様子を知っていただくことができた。

地域には、主に学校だよりやホームページ、会合などで学校の取組などを紹介してきたことが、高評価につながったと考えられる。目標に沿った教育活動を実践してきたことが多くの方にご理解いただけた。今後も実践と情報提供をしっかり行っていきたい。

【プラス評価の比較的低かった項目について】※「あまり思わない」+「思わない」%

一 児童一

◇学び舎の中学校に行ったり、中学生が来たりする機会がある。 23.4%

◇先生たちに相談できる。 19.9%

一 保護者一

◇私は、今年度の学校重点目標を理解している。 35.5%

◇「学び舎」の区立（幼稚園）中学校について情報が提供されている。 34.0%

一 地域一

◇通学している子どもたちは、交通ルールなどを守っている。 47.1%

◇「学び舎」の活動について、情報が提供されている。 35.3%

学び舎の活動について、児童、保護者は昨年度より、それぞれ 11.7p、6.3p 改善された評価だった。児童の学び舎での直接交流によるものと考えられる。保護者にも学校だよりなどで全学年に知らせたことで、学校全体での取組として周知することが大切なことが分かった。地域へは学校だよりでは情報が届かないことが考えられる。地域の会合等の機会に周知することが必要といえる。

重点目標については、年度初めにお知らせしたが、その後、どのような取組が行われたのか周知がなかったことが、低評価の要因と考えられる。学校だよりで重点目標についての取組状況を毎月周知することでご理解いただく。

【「分からない」評価の比較的多かった項目について】

一 児童一

◇区立中学校に関する情報が提供されている。 28.4%

一 保護者一

◇5・6年生で一部教科担任制を取り入れ、

子どもの学習意識を高める工夫をしている。 44.3%

一 地域一

◇学校運営委員会は活動を周知し、役割を果たしている。 17.6%

学び舎の中学校は距離があり小学校との直接交流は難しい。間接交流として中学校の学校だよりやホームページから情報を得て、関わりを深める必要がある。一部教科担任制は高学年で行っているので、低・中学年の保護者には情報が伝わりにくいと言える。7年度は、中学年においても一部教科担任制を行い、低学年では交換授業を増やし、全学年で推進する。

地域運営学校として学校運営委員会の活動は大切である。活動状況を保護者、地域にホームページで知らせていく。

II 令和6年度の重点目標の成果と課題

1 課題意識をもって考え、自分の考えを表現できる子どもの育成

「課題意識をもって学ぶ」視点で授業改善が図られ、「授業中よく考え、めあてをもって学習している。」と自己評価した児童は、全体で 85.5%と前年度より 1.2P 上回った。また、すべての学年で 80%を上回っている。高学年児童アンケートでは、「先生は、課題（めあて）について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている。」の設問に対して、90.0%の児童が肯定的評価をしている。その他授業に関する設問において 90%前後の肯定的評価をしている。保護者アンケートでは、「本校は、子どもが考えることや課題を解決することを大切にした授業を行っている。」という設問には、全体で 78.4%の肯定的評価となり、昨年度並みだった。

今後も、課題を追究、解決する探究的な学びを大切にし、子ども一人一人が社会の担い手として自らが課題に向き合い判断して行動し、それぞれが思い描く未来を実現できる人材を育成するために、児童主体の授業改善を図る。

一部教科担任制については、高学年しか実施していないこともあり、保護者の 44.3%が「分からない」という評価だった。教員が教科の専門性を高め、児童が教科等の特性に触れる楽しさをより味わい、学びを深めるために、中学年においても一部教科担任制を行い、低学年では交換授業を増やしていく。

2 相手の気持ちを考え、思いやりのある行動をする子どもの育成

「相手の気持ちを考えた行動している」と自己評価した児童の割合は、全体で 90.1%と前年度より 2.3P 下回った。また、「係や当番活動を責任もって行っている。」と評価した児童は、92.2%と前年度より 1.3P 上回った。さらに、高学年児童のアンケートで、「目標をもち、その実現に向けて努力している。」と回答した児童は 88.1%と前年度より 4.9P 下回った。そして、「自分の生き方や将来のことについて、考える授業がある。」については、肯定的評価が 78.6%と前年度 6.1P 上回っている。保護者アンケート全体では、同質問で、62.6%、48.9%、と毎年 2~3P 上がっている。相手とともに自分自身を理解し、自ら高めていくために、更に道徳教育とキャリア・未来デザイン教育を推進していく必要がある。

3 自分の健康や体力に关心をもち、すすんで運動に取り組む子どもの育成

「運動が好きである。」と回答した児童は、全体で 85.9%と前年度より 1.1P 下回った。運動する意欲を高めるために、授業の充実はもちろんのこと、体力向上甸間の設定や体力向上カードを用いて取り組む工夫が必要といえる。そして、自分の健康や体力に关心をもち、すすんで運動に取り組む児童を引き継ぎ育てていきたい。

III 信頼と誇りのもてる学校づくり

1 保護者・地域との連携

「本校は、地域の活動などに協力的である。」は、73.0%と昨年度より 0.3P 上回った。今年度も「そしがや夏祭り」、「開校記念もちつき」等、様々な地域行事が行われ

た。そのような活動での連携を今後もとっていきたい。

また、「本校は、地域の人や施設を教育活動に生かしている。」は、保護者の 76.0%、地域の 76.4%が肯定的評価をしている。「祖師谷サポートは子どもの安全な学校生活を支えている。」については 77.9%が肯定的な評価だった。授業中の安全確保や 1 年生のサポートなどの趣旨や活動内容について理解されている。「祖師谷サポート」は、本校の教育の充実に欠かすことはできない。さらにサポート隊登録者数を増やし、保護者・地域が教育活動に参画していくことで、より教育活動の充実につなげていきたい。

学校協議会、学校運営委員会の活動や「学び舎」の活動については、依然として「分からぬ」といった回答が多くあった。今年度は、学び舎の授業参観や情報交換会を行ったり、6 年生が中学校に行って中学校の授業を体験したりするなど保幼・小・中の交流も増えた。学校 HP、学校だよりなどで取組を伝えたが十分とはいえないかった。これからも情報発信、説明等を行っていくことが大切といえる。

2 信頼と誇りのもてる学校づくり

「本校の学校生活は、子どもにとって楽しい。」では、88.1%の保護者が肯定的評価をしている。全校児童のアンケートでは、「学校での毎日の学校生活が楽しい。」と回答した子が 87.5%となっている。また、保護者アンケートの「本校は子どものことを相談しやすい。」では、80.7%となっている。高学年児童のアンケートでは「先生たちに相談できる。」の肯定的評価が 75.1%前年度と前年度より 7.6P 高くなった。教員と児童がより信頼関係を築けるよう教職員に心や時間の余裕をもたせる工夫をする。「本校は、学校公開や保護者会などで、児童の様子が分かる。」が 94.6%、「本校はホームページやメールなどで、保護者に情報を提供している」が 91.5%といずれも高い評価を得ている。今後もさらに充実させ、紙媒体から電子媒体の通知の移行を推進する。

3 安全安心と学びを充実する教育環境の整備

「本校は、安全な学校づくりを進めている。」は、保護者は 75.2%が肯定している。地域の「通学している子どもたちは、交通ルールを守っている。」の設問では、肯定的評価が 47.0%と前年度より 28P 低かった。保護者、地域と連携し交通安全指導を徹底する必要がある。

4 学校生活全般

保護者アンケートで「学校行事は、子どもにとって楽しい。」94.9%、「学校行事は、子どもにとって達成感がある。」93.4%といずれも高い評価を得ている。「本校の教育活動に満足している。」では、肯定的評価が 82.0%だった。総合的に見て、本校の教育活動に高い評価をいただいた。この結果に奢ることなく今後も教育活動の充実を図っていきたい。

今年度の学校公開は自由に参観できる形で実施した。保護者会も対面で 2 回行った。今後も子どもたちの学校生活の様子をお伝えする機会を大切にしていきたい。

IV 令和7年度の重点目標と具現化の方策

1 課題意識をもって考え、自分の考えを表現できる子どもの育成

(1) キャリア・未来デザイン教育を推進する。

急速に変化する社会の中で、子ども一人一人が社会の担い手として自らが課題に向き合い判断して行動し、それぞれが思い描く未来を実現できる人材を育成する。そのために「キャリア・パスポート」を作成し、自己を振り返ったり、新たな目標を設定させたりして、チャレンジする力を育てる。

(2) 課題を追究、解決する探究の過程を大切にする。

主体的な学びを推進するために、児童が学ぶことに興味や関心を持ち、課題を見いだし、解決の方法を考え、協働して学び、学習活動を振り返り次の学習につなげられるような探究の過程を大切にする。

(3) 教育DXを推進する。

タブレット端末を活用した授業を推進する。リモート授業及びデジタル教材を使った課題解決学習や探究活動、ロイロノート等での考え方の交流、キュビナでの学習の深化、家庭学習での活用を推進する。また、「活用、自律・行動規範」となるデジタル・シティズンシップを身に付けさせる。

(4) 学校図書館と連携を図る。

図書館司書、PTAと連携し、各教科や総合的な学習の時間などで学習に必要な学校図書館や各教室の文献、資料を充実させる。

(5) 教員の各教科等の専門性を高める。

中・高学年に一部教科担任制や交換授業を取り入れ、教員の教材研究の時間を確保し、児童に教科等の特性に触れる楽しさを味わわせる。また、低学年においても交換授業を取り入れる。さらに、ショート研修の時間を確保し、各教科等の指導方法を研修する機会とする。

(6) 本物に触れる授業を取り入れる。

地域人材等のゲストティーチャーを積極的に招き、話を聞いたり、体験活動を行ったりする。また、実物を調達したり、見に行ったりする直接体験を大切にする。

(7) 朝のモジュールの時間を効果的に活用する。

8:25～8:40に短時間授業を実施し、児童の学びを深める。

2 互いのよさを認め合い、相手を尊重できる子どもの育成

(1) 道徳教育の充実を図る。

教育活動全体を通じて道徳性を養う。特に生命を大切にする心、思いやりの心、規範意識の醸成を図り、自分たちの生活場面を話し合い、実践する力を育てる。

(2) インクルーシブ教育を推進する。

多様な個性を認め合い、相手を尊重し、共に学び共に育つインクルーシブ教育を推進する。そのために環境整備や合理的配慮によるサポートを行う。

(3) いじめ防止教育を推進する。

いじめ防止教育年間計画を基に年間を通していじめ防止教育を推進する。特に年3回の「ふれあい月間」には学校生活アンケートを実施し、気になる子には面談を

実施する。いじめは早期発見に努め、組織で対応し早期解決を図る。

(4) 交流活動を大切にする。

異年齢集団による交流や通常の学級と特別支援学級との交流、幼保との交流、中学生との交流、地域の方々とのふれ合い等の活動を通して、互いに認め合い学び合う態度を育て、温かい人間関係を深める。

(5) 「そしがやしぐさ」の取組を推進する。

「にこにこしぐさ」「どうぞどうぞしぐさ」「ピカピカしぐさ」の行動を推奨し、思いやりの心やボランティア精神を育てる。

3 自分の健康や体力に关心をもち、すすんで運動に取り組む子どもの育成

(1) 体力向上の取組を行う。

体力向上を目指し、体力向上時間を見定したり、体力向上カードを用いたりして短なわ、長なわ、ペースランニング、祖師谷エクササイズに積極的に取り組む。

(2) 体育施設を有効活用する。

日常的に運動に親しめる環境を整備する。豊富な固定施設、広い校庭、体育館や屋上といったスペースを有効活用する。また、体育用具の充実や魅力的な運動の場づくりを通して児童の運動欲求を充足させる。

(3) 健康教育を推進する。

養護教諭、栄養士が中心となり、保健教育と食育の充実を図る。学校保健委員会を実施し、児童の健康について保護者とも連携を図る。家庭科の調理では喫食まで行う。

V まとめ

6年度は、4月のスタートから、制限のない通常の活動ができました。そのような中で皆様のご支援ご協力をいただき、子どもたちが充実感を得られるような学校作りを行ってまいりました。本校の教育活動に深いご理解と励ましをいただいたことに感謝します。

アンケートにおいて評価が低かった項目や「わからない」という回答が多かった項目については、関係者評価委員会の見解を踏まえながら検討し改善を図ってまいります。

本校は、保護者、地域のご理解ご協力とサポート等によるご支援、また、ご指導ご助言をいただきながら学校づくりができると感じております。今後も、学校が、保護者・地域と問題を共有し、「チーム祖師谷」としてその関係をさらに強め、よりよい学校づくりをして参りたいと思います。

今後とも、本校の教育活動にご理解とご協力、ご支援をよろしくお願ひいたします。